

## 「ごみと資源の総量」の削減状況について

### 1 ごみと資源の総量

平成28年度における「ごみと資源の総量」については、21年度に比べ4.5%以上削減することを目標としています。

28年度4月から7月までの「ごみと資源の総量」（速報値）は、約42万トンで、21年度の同時期に比べ約2万トン減少（▲4.5%）しました（27年度の同時期に比べ約100トン減少（▲0.03%））。

なお、家庭系の資源化量に含まれる資源集団回収量は、集計に3か月程度要するため、6月、7月分について推計値を使用しています。

表1 平成28年度4月～7月のごみと資源の総量（速報値）

【単位：トン】

	ごみと資源の総量						
		家庭系			事業系		
		ごみ量	資源化量 <sup>※1</sup>		ごみ量	資源化量 <sup>※2</sup>	
28年度	420,926	300,110	205,030	95,081	120,815	103,134	17,681
21年度差	▲19,778 (▲4.5%)	▲23,550 (▲7.3%)	▲9,539 (▲4.4%)	▲14,011 (▲12.8%)	3,773 (3.2%)	▲6,592 (▲6.0%)	10,364 (141.7%)
27年度差	▲125 (▲0.03%)	▲1,322 (▲0.4%)	2,166 (1.1%)	▲3,488 (▲3.5%)	1,196 (1.0%)	▲560 (▲0.5%)	1,757 (11.0%)
21年度 (基準年度)	440,703	323,661	214,569	109,092	117,043	109,726	7,317

※1 家庭系の資源化量に含まれる資源集団回収量については、28年6月～7月分を推計しています。

※2 事業系の資源化量は、学校給食残さの資源化量と事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

※ 端数処理の関係で合計が一致しないことがあります。

### 2 市民への情報提供について

7月までの実績では、「ごみと資源の総量」は着実に減少しておりますが、27年度に比べ家庭系のごみ量が増加していることや、例年の傾向から年度の後半に向けてごみ量の増加が見込まれることから、厳しい状況にあると認識しています。

今年度から、市・各区の自治会町内会連合会及び区長会議において、四半期ごとに実績報告を行っており、地域での情報共有を広め、分別はもとより、ごみ量の一層の削減につなげていきます。

< 参考 >

平成28年度4月～7月の家庭系燃やすごみ量実績（速報値）【単位：トン】

		家庭系燃やすごみ量
28年度		194,464
21年度差		▲ 9,329 (▲4.6%)
27年度差		2,588 (1.3%)
21年度 (基準年度)		203,793

平成28年度4月～7月の家庭系燃やすごみ量 各区の実績（速報値）

【単位：トン】

	28年度 燃やすごみ量	21年度差	増減率 (H21比) (%)	27年度差	増減率 (H27比) (%)
鶴見	14,573	▲ 499	▲ 3.3	140	1.0
神奈川	11,934	▲ 753	▲ 5.9	180	1.5
西	4,810	▲ 281	▲ 5.5	48	1.0
中	7,866	▲ 709	▲ 8.3	6	0.1
南	10,475	▲ 1,174	▲ 10.1	107	1.0
港南	11,387	▲ 683	▲ 5.7	67	0.6
保土ヶ谷	11,100	▲ 986	▲ 8.2	155	1.4
旭	13,799	▲ 541	▲ 3.8	258	1.9
磯子	8,899	▲ 508	▲ 5.4	174	2.0
金沢	10,704	▲ 857	▲ 7.4	111	1.0
港北	16,646	▲ 298	▲ 1.8	222	1.4
緑	9,349	▲ 184	▲ 1.9	156	1.7
青葉	16,016	▲ 384	▲ 2.3	270	1.7
都筑	10,751	199	1.9	214	2.0
戸塚	14,059	▲ 1,065	▲ 7.0	254	1.8
栄	6,671	▲ 436	▲ 6.1	34	0.5
泉	8,532	▲ 123	▲ 1.4	124	1.5
瀬谷	6,891	▲ 48	▲ 0.7	69	1.0
18区	194,464	▲ 9,329	▲ 4.6	2,588	1.3